

センター活用事例 [case1]

有限会社 堀江文具

facebook / てぬぐい「あぁ、思い出の由利橋」

由利本荘市本荘100番地
Tel. 0184-23-2115 Fax. 0184-23-2114
[営業時間] 平日9:30~19:00 / 土曜日9:30~17:30 / 祝日9:30~15:00
[定休日] 日曜

「作って売って終わりではなく、“地域の今後”に繋がる商品にしたい」と話す堀江さん。



地元の魅力を見直すきっかけに



有限会社 堀江文具

今年4月の発売以来、大人気の手ぬぐい「あぁ…思い出の由利橋」。懐かしの風景が地域愛を呼び起こす。

発売半年足らずでヒット

手ぬぐいに描かれているのは、由利本荘市の市街地を流れる子吉川と平成21年に老朽化による架け替えにより撤去された旧由利橋（通称：ゆりきょう）。その橋と川、河原で繰り広げられる季節の風景、何気ない日常、年中行事など。

発売以来、由利本荘市内の各販売店で入荷待ちになったほか、東京・有楽町の「秋田ふるさと館」では販売期間が延長になるなどヒット商品となった「あぁ…思い出の由利橋」。初回に制作した500枚を完売し、夏には追加制作分が店頭で並んだ。

地元民の思い出をイラストに

企画したのは、文具や画材などを扱う「堀江文具」代表の堀江彩子さん。当センターの専門家派

遣事業を利用し、秋田市のデザイナー・鎌田あかねさんと昨年度から相談を重ねて商品化した。

堀江文具は、文化交流館「カダレ」内の物産館「ゆりぶらざ」に商品を置く由利本荘市特産品販売組合のメンバー。「ゆりぶらざに由利本荘市ならではのお土産が増えたらいいな」と考え、自ら手ぬぐいを愛用していることからオリジナル手ぬぐいの制作を思いついた。

「鳥海山は？本荘ごてんまりは？」など、どんな絵柄にするか打ち合わせを重ねるなか、鎌田さんの「個人的に思い入れのあるものをモチーフにしては？」との一言で、堀江代表が小・中学校時代に通学路として利用した記憶の中の「由利橋」に決定した。

旧由利橋にまつわる思い出を地元の知り合いに聞いて回り、原案をまとめた。橋を渡る制服姿の学生やランドセルを背負った小学生、新山神社裸参りの男衆、川に浮かぶ子吉川レガッタのボート、夏のいかだ下り大会の人々など、地元民の思い出たっぷりのイラストが完成した。

さまざまな展開に期待

発売以降、地元の人や地元を離れて暮らす人から「懐かしい」「親戚に送りたい」「第2弾は？」などの多くの声が寄せられた。「好評でうれしい。裏を返せば、地元を語るお土産が少ないということ。この手ぬぐいをきっかけに本荘ならではのお土産がもっと増えることを期待したい」。これを機に座談会を開催するなど地域おこしに役立てたいと考えている。さらには第三者から「あぁ…思い出の由利橋」の絵柄を使いたいという相談も。今後の展開を考え、当センターの知財担当の助言を得ながら著作権や商標登録等の手続きを検討している。



A 「ゆりぶらざ」で。他に堀江文具、市役所売店、民芸さいとう、本荘第一病院売店、村井酒店（以上、由利本荘市）、あきた県産品プラザ（秋田市）などで販売。

B 緑の看板が目印の堀江文具。

事業概要 専門家派遣事業

企業等が抱える経営・技術・人材・情報等の課題に対し、センター登録専門家を派遣し、診断・助言を行います。

お問い合わせ

あきた企業活性化センター 総務相談グループ
総合相談担当
TEL 018-860-5610